学校教育目標「心豊かで、自主性に富み、創造的で、未来を切り拓く生徒の育成」

大村中学校 学校だより

~温かな日の光の中で自主・創造・敬愛を育む~

第12号 令和6年7月8日 文責 副校長 岸本 博史

大中っ子の心を見つめる教育週間

7月1日(月)~7月6日(土)の期間は、「大中っ子の心を見つめる教育週間」として、生徒たちの学習の様子を見ていただきましたが、生徒たちが学ぶ姿はいかがだったでしょうか?

この期間、生徒たちは様ざまな教育活動を通して、自分やクラスメイトの命の大切さ、人との関わりの大切さを学ぶことができたようですので学習の様子を一部紹介します。

性教育講演会

7月3日(水)、3年生は性教育講演会を受講しました。

助産師の西田莉瑚さんをお迎えして、「思春期のからだと心について」 「身近な性の問題」「あなたのはじまり」の3つのテーマで話をしてい ただきました。

「思春期のからだと心」では、からだの変化は大人になるための自然 の変化であり、心の変化は自分を見つめ自分を知り、自分が何者である かを考える時期であることを教えていただきました。

「身近な性の問題」では、身体の性、心の性、好きになる性、表現する性の4つがあること、そして、SNSを通して性犯罪に巻き込まれる可能性があることを教わりました。さらに、性感染症についての予防法についても学ぶことができました。

「あなたのはじまり」では、O.1mmという受精卵の大きさに生徒は驚き、望まない妊娠をした場合には、赤ちゃんの命を奪うことになること、そして赤ちゃんも同じ人間であり幸せになる権利があることを学びました。また、二人の男子生徒が妊婦体験用の装具を付け、靴下を脱いだり、ペンを床から拾ったりする体験をしました。初めは余裕だと思っていた二人の男子生徒、蒸し暑い体育館で椅子に座っているだけでも、7kgの装具が重くのしかかると同時に、お腹の中の子供のことを気にしながら動かなければならないことに、これを10か月続けなければならない母親の偉大さを実感したようでした。

教室では、赤ちゃんの抱っこを体験しました。首の座らない赤ちゃん (人形ですが)に戸惑いながらも、命の重みと大切さを感じたようで す。



折り紙に開けられた 0.1mmの穴 (受精卵の大きさ)を一生懸命探 しています。



妊婦さんの大変さを体験中



赤ちゃんを抱っこして素敵な笑顔

ファミリープログラム

7月5日(金) 19時から図書館においてファミリープログラムが実施されました。保護者、地域の方々約50名が参加し、地域が学校に対してできること、学校が地域にしてほしいことなどをテーマに意見交換を行いました。3名のファシリテーターの方が、話し合い活動をスムーズに進めていただいたおかげで、多くの考えや意見を交換することができました。



今回の考えや意見を参考にしながら、学校と保護者、地域がさらに連携・協働し、一緒に子どもたちを育て ていく体制を整えていければと思います。

全校道徳

7月6日(土) 1時間目は、校長先生による全校道徳が行われました。 まずはアイスブレイク、学級でエア大縄跳びを行いました。縄が見える ように跳べればOK。初めはうまく跳べませんでしたが、作戦会議の後は 掛け声を出したり、回し手も体全体を使って表現したりしてみんなで協力 しながら楽しく取り組むことができました。

アイスブレイクの後は、漫画「志乃ちゃんは自分の名前が言えない(押見修造著 太田出版)」を活用して人との関わりについて学びました。

主人公の志乃ちゃんは人と話すのが苦手、この志乃ちゃんの困り感はすぐに解決できる問題ではない。それならば、周囲の人は、その様子から問題点を見つけ、問題の解決を目指すにはどうしたらいいかを考えました。まず、自分自身で考え、次に4人のグループで開きあいを行いました。「互いに理解しあってコミュニケーションを図る」「苦手を理解してあげる」など多くの考えが出てきました。「それでは具体的に何をするの?」と校長先生がさらに質問をすると、「手紙でのコミュニケーション」「班活動を増やして仲を深める」「相手のことを思って話しかける」などの多くの考えが発表されました。

「ハンディキャップを感じさせない環境づくり」や「相手の話に傾聴し、 考えや思いを受け止める」ことの大切さが大村中学校の生徒の心に育って いると感じました。







学級道徳

全校道徳の後は、教室に戻り各学級で「命に関する道徳授業」を行いました。

1年生は「あなたはすごい力で生まれてきた」という題材を使い、 生命誕生の奇跡と命を大切にして生きることの大切さを学びました。 ワークシートに開けてあった O.1mmの穴、自分の始まりの大きさに 驚きを隠せなかったようです。

2年生は「命を見つめて一猿渡瞳さんの646日一」という題材を使いました。骨肉腫と闘いながら、自分の夢を最後まで諦めない主人公の姿から、限りある命を懸命に生きることの素晴らしさについて、そして当たり前の日常は奇跡的なことだということを学びました。

3年生は命の尊さについて「エリカ―奇跡の命―」という題材を使いました。第二次世界大戦中のユダヤ人迫害。強制収容所に向かう列車から投げ出された赤ちゃん。死に向かう両親の子どもへの思い、そして身の危険を顧みず命を救う勇気の話から、「繋がれる命」を大切にしながら生きていくことの大切さを学びました。

大中っ子の心を見つめる教育週間の御礼

教育週間期間中は、多くの保護者、地域の皆様に御来校いただき、 ありがとうございました。教育週間は終わりましたが、日々の教育活動において引き続き「命」について考え、道徳的判断力や実践力を育てていきます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

